

司法省日誌

七

明治七年五月



日本史籍協會編

司法省日誌
明治初期各省日誌集成

東京大学出版会

七

明治七年五月

司し法ほう省しょう日にっ誌し七

明治初期各省日誌集成 第一期

昭和五十九年三月三十一日覆刻

編者 日本史籍協会

代表者 森谷秀亮

東京都三鷹市大沢二丁目十五番十六号

発行者 財団法人 東京大学出版会

代表者 江村 稔

一一三 東京都文京区本郷七丁目三番一号
振替東京六一五九九六四

電話(八一)一八八一四

印刷・株式会社 平文社

本文用紙・王子製紙株式会社

クロス・望月株式会社

製函・株式会社 光陽紙器製作所

製本・矢嶋製本株式会社

39075

ISBN4-13-093907-6

日本史籍協会編

司法省日誌

全二〇卷

A 5判

平均四六〇頁

各価六〇〇円

明治初期各省日誌集成第一期

卷	年	代	刊行月	卷	年	代	刊行月
1	明治六年一・二月	58年	9月	11	明治七年二月	59年	7月
2	明治六年七・八月	10月		12	明治七年三月	8月	
3	明治六年八・九月	11月		13	明治七年索引	9月	
4	明治七年一月	12月		14	明治八年一月	10月	
5	明治七年二月	59年	1月	15	明治八年二・三月	11月	
6	明治七年三・四月	2月		16	明治八年四・九月	12月	
7	明治七年五月	3月		17	明治八年〇・三月	60年	1月
8	明治七年六月	4月		18	明治九年一・二月	2月	
9	明治七年七・八月	5月		19	明治九年三月	3月	
10	明治七年九・〇月	6月		20	明治九年四・五月	4月	

司法省日誌 七 目次

明治七年五月

第八十二號 (五月三日)	一
第八十三號 (五月四日)	二
第八十四號 (五月五日)	四
第八十五號 (五月七日)	六
第八十六號 (五月七日)	八
第八十七號 (五月十二日)	一〇
第八十八號 (五月十三日)	一二
第八十九號 (五月十四日)	一四
第九十號 (五月十四日)	一六
第九十一號 (五月十五日)	一八
第九十二號 (五月十七日)	二〇
第九十三號 (五月十七日)	二二
第九十四號 (五月十九日)	二四
第九十五號 (五月二十日)	二六
第九十六號 (五月二十三日)	二八
第九十七號 (五月二十四日)	三〇
第九十八號 (五月二十五日)	三二
第九十九號 (五月二十七日)	三四

第百號 (五月二十九日)
第百一號 (五月三十日)

三六一
三八三

司法省日誌明治七年第八十二號

○五月三日

〔箱館裁判所長權少判事井上好武伺〕七年五月二日

箱館地方ノ如キ本僻陬ノ邊土近年ニ至リ人民輻湊ノ開
港場ニ係リ無籍ノ父母漂泊中出產スル者等天地ヲ家ト
シ飲食ヲ路頭ニ乞フノ徒往々有之候由元來無文不知ノ
愚民ニシテ政令布告ヲ知ラサル者其罪ヲ問ハス本人情
願スル處ノ籍ニ編入シ可然哉奉伺候也

指令

伺ノ通

〔滋賀縣伺〕七年四月十三日

本月七日附ヲ以テ戸長村方預リ金ヲ私借スル其外伺第一條ニ貢納ス可キ金穀未タ官納ノ期ニ至ラサル前各民ノ便宜ニ依リ戸長ヨリ豫メ取立手許ニ預リ置候ヲ自己ノ融通ノ爲メ一時私借シ追テ納期ニ至リ辨償セントスル等ノ者往々有之右ハ未タ官ニ納メサル内ナレハ各民ノ私有物ナリ然レハ官物ヲ私借スルヲ以テ論シ難シ云々ト相伺候處尙ホ其後再考致候ニ右ハ假令官ニ納メサル内ト雖モ官物ト見做サ、ルヲ得スト存候如何トナレハ若シ貢納ス可キ金ヲ取集メ戸長手許ニ預リ置候後貢納限ニ違フテ官へ納メサルトキハ明治五年第二百八十號御布令ニ依リ加息金取立サルヲ得サルニ似タレモ當

人ニ於テハ已ニ戸長手許迄差出置候儀ニ付官ニ納メサルハ畢竟戸長ノ罪ナリ故ニ加息金ハ當人ヨリ追スルヲ得ス是レ戸長ハ一村ノ催科吏ト見ル所以ナリ已ニ催科吏ト見ル上ハ私ノ相對ヲ以テ徵収スル者ニアラス公權ヲ以徵收スル者ナリ是各民ノ私有物ト見做スヲ得サルノ一ナリ又前顯私借ノ罪發覺スル上其贓ヲ追スルニ若シ各民ヨリ便宜ニ依リ戸長ト相對示談ヲ以テ預ケ置ク者ト見ルトキハ直チニ戸長ヨリ之ヲ追スルヲ得ス各民ヨリ利息ヲ加ヘ納メシムルノ後其私借スル所ノ金ハ各民ヘ對シ償ハシメ候順序ニ候ヘ共區戸長ハ官吏ニ准シテ取扱候御布告モ有之已ニ官吏ニ准スル戸長ノ公權

ヲ以テ徵收スル所ノ貢金ヲ私借スルニ各民ノ不納スル者ト見テ利息ヲ加ヘ更ニ各民ヨリ納サメシムルノ理ナシト存候是各民ノ私有物ト見做スヲ得サルノ二ナリ因テ前顯貢金ヲ預リ置私借スルハ斷然官物ヲ私借スルヲ以テ論シ可然哉ト存候ニ付前日ノ伺第一條ハ更ニ前顯ノ通り伺直シ候間御指令被下度候也

指令

先般伺面ノ如キハ指令本年第七十六號見合セ通心得可シ但シ既ニ費用シテ納期ニ違フ者ハ今般伺ノ通

〔豐岡縣伺〕七年三月三十一日

初犯處刑ヲ經再同罪ヲ犯シ自首シテ減免ヲ得三タヒ同

罪ヲ犯ス者自首ノ再犯ヲ通算シテ三犯トナシ可然哉
老小癡疾收贖條例第四十六條ニ姦盜ノ罪ヲ犯スハ律ニ
依リ收贖スト雖モ強盜強姦ヲ犯スハ實斷スト有之不孝
放火ノ死罪以下ヲ犯ス者モ強姦強盜ト同ク可實斷哉
糾彈官吏犯罪條例第二十九條ニ凡糾彈官吏ト稱スルハ
檢事警保官吏ヲ云ト有之縣ニ於テハ聽訟斷獄擔當ノ属
官以下捕亡吏ニ至ルモ糾彈官吏ニ擬シ可論哉相伺候也

指令

第一條 初犯所決ヲ經テ再ヒ同罪ヲ犯シ自首スル者全
免シ三犯ノ時再犯ヲ以テ論ス

第二條 不孝放火ノ罪ハ收贖ヲ聽サスト雖モ死罪以下

ハ一概ニ論定シ難キ者アリ犯者アラハ口供ヲ以テ伺
出可レ

第三條 糾彈官吏ヲ以テ論スル限ニ在ス

○

補十五等出仕

等外一等出仕

岡

林

徹

同

同

橋

詰

貞

利

依願免出仕

十一等出仕

磯

野

恆

德

〔静岡縣伺〕

七年四月
十四日

壬申第三百號御布告静岡及ヒ仙臺會津其外再立ノ藩々
再立以前ノ金穀貸借ハ裁判不及旨ノ處舊静岡藩ヲイテ
ハ已ニ明治元年辰五月更ニ七十萬石ヲ賜リ再立イタシ

候儀ニ付右以後ノ分ハ取上裁判可及乎然レハ同號御布告華士族卒ヘ掛ル云々明治二年巳六月郡縣ノ制被仰出候以前ノ分ハ裁判ニ不及トアルニ因レハ舊静岡ノ藩ノ如キハ明治元年辰五月ヲ期限ニシテ外藩々於テハ明治二年巳六月ヲ期限ト爲シ候乎又ハ華士族卒ヘ掛ル分ハ概シテ郡縣ノ制ヲ期限トシ裁判イタス可キ乎此段相伺候也

指令

静岡其他再立ノ藩々云々ハ藩用ニ充候借金ノ事ニテ私借ノ分ハ郡縣ノ制ヲ期限トシ裁判及フ可キ事

〔埼玉裁判所伺〕

七年四月
十二日

戸長副戸長等其町村ノ租税金ヲ地方廳へ完納スヘキ期限ニ先タテ預メ人民ヨリ取集メ管守中私借費用シ由テ納期ニ違フ者職制律監守スル所ノ官ノ財物ヲ私ニ借用スル者ニ準シ破廉恥甚ナテ論シ其賍ハ身代限追徴シ尙不足アルハ官ノ捐失ニ止ムル哉 但本文身代限揭示及ヒ金圓分配等ノ諸方法ハ通常私債ノ者ト總テ異ナルナキ哉

同上ノ時ニ當リ仍ホ明治五年第二百八十五號御布令ノ通り利金ヲモ取立可相成ヤ果シテ然レハ違期ノ原由タル該犯名下ニ就キ本罪ノ贓金同一裁判所ニ於テ徵取シ地方廳ニ送付スルヤ或ハ其贓金即チ不納本金并利子ヲ

合シ取立方ハ刑名宣告ノ後同廳ニ移シ處分セシムヘキ
哉奉伺候也

指令

第一條 私借官物律ニ依リ罪ヲ科シ贓已ニ費用スレハ
資力限追徴ス可シ 但書刑法上盜贓追徴ノ法民法身
代限ノ法ト異ナレハ揭示及ヒ分配等ノ方法ヲ用ユル
限ニ在ス

第二條 利金ハ追徴ニ及ハス賍金ハ裁判所ニ於テ追徴
ノ上地方官ニ交付ス可シ

○五月四日

〔大分縣伺〕七年四月
十四日

明治六年一月十七日太政官第十八號地所質入書入御規
則第十條一ヶ所ノ地所ヲ二重三重ニ書入候ハ不相成候
ヘ共云々若シ糶賣ノ金高ヲ以テ先第一番ノ金主ヘ元利
ノ金高ヲ引渡シ其餘金不足スルキハ第二番ノ金主ヘ不
足ノ儘引渡スヘク三番以下ハ皆損失ト心得ヘクト之ア
リ右ハ其書入ノ地所ノミ糶賣ノ處分ニテ第二番以下不
足スルト雖モ書入外ノ物品身代限りノ處分ニ不及儀ニ
可有之哉同八月廿三日第三百六號動產不動產貸借御規
則第二項動產不動產ヲ書入ニナシ金穀貸借シ云々若シ
其價ヒ負債ヨリ不足ナレハ身代限濟方可申付トアルニ

照依スレハ前條第二番以下不足スルキハ不足ノ分ハ書
入外ノ物品身代限り入札拂ノ上其代金ヲ以金高ニ應シ
債主ニ引渡シ猶不足ノ分ハ身持直シ代次第濟方可申付
儀ニ可有之哉

右同號御規則第十二條質入年季中天災ニテ地所流亡等
云々其地ノ半部或ハ三分ノ一部形跡ヲ存セサルニ至ル
キハ右變換地及ヒ殘存地ニ應シ規則ニ基キ地券書替可
願出儀ニ付貸金穀高モ其割合ヲ以テ相減シ証文書替候
儀ト可相心得トアリ就テハ右相減候分ハ質取主ノ損失
ニ可有之哉

地所ヲ書入ニ致シ金穀ヲ借り其証文中返濟期限ニ至リ

元利金相滯候節ハ書入ノ地所御渡可申或ハ御勝手ニ被成候共一言ノ申分無之等ノ明文有之其証文ヲ以テ訴出候節ハ約定ノ通地所爲引渡可然哉又ハ其文言ニ不拘右書入ノ地所ハ糶賣ノ處分ニ致シ候儀ニ可有之哉

壬申二月十六日以後ノ証書ニテ質入ノ地所年季明不受戻訴出候節ハ直ニ糶賣致候ニ付テハ其糶賣金貸金高ヨリ不足ノ節ハ身代限濟方申付可然哉

器物ヲ貸借シ借主返濟不致一方ノ者確証ヲ以テ出訴候節ハ何ケ年以前ノ貸借ニ候共取上裁判致シ若シ借主已ニ其器物ヲ賣却費用致シ居候節ハ賠償セシムルハ無論ニ候ヘ共若シ其者貧困ニシテ賠償スル能ハス其器物他